

令和4年度 益子町立益子西小学校 学校評価書

教育課程 外国語活動・外国語科編

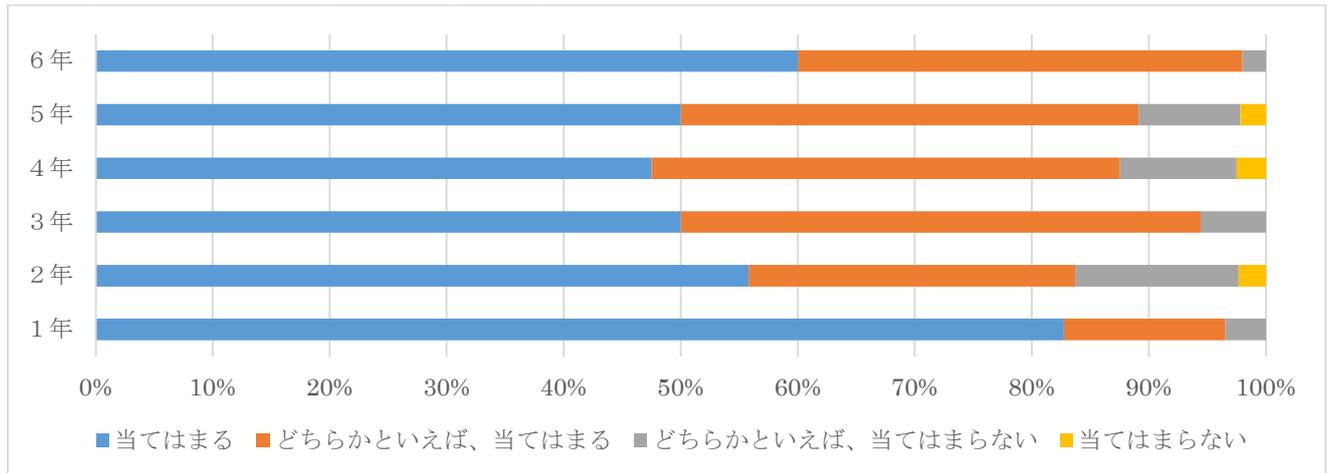
< 具体の評価指標 >

- ・教育課程の適切な実施の下に、学校は明るい雰囲気児童は生き生きと生活している。
- ・外国語活動・外国語科に対する興味・関心、外国語の表現への慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が十分図られている。

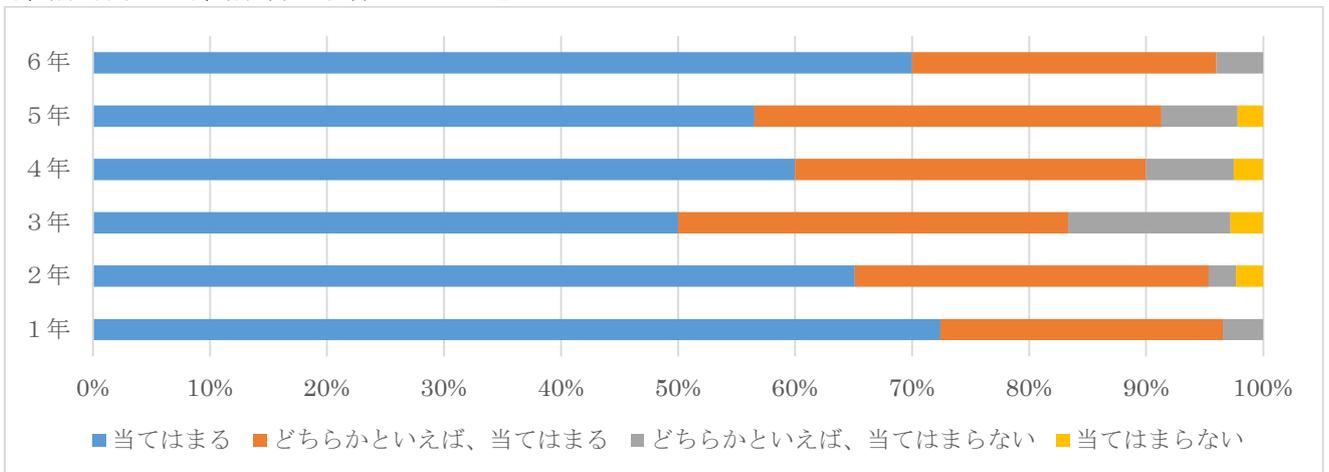
① 自己評価

(1) 児童の意欲について (令和4年12月実施のアンケート結果より)

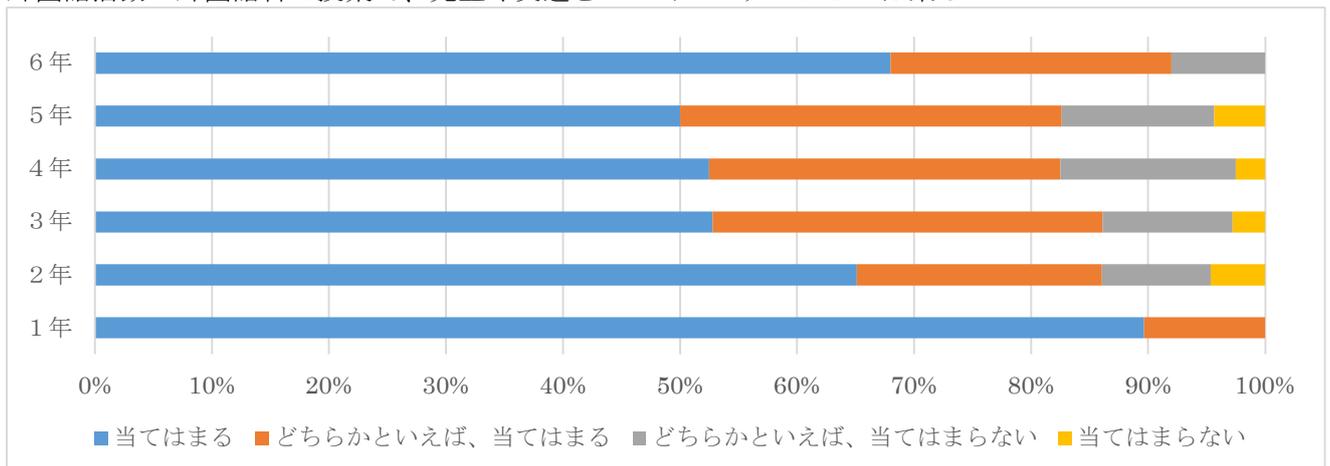
① 外国語活動・外国語科の授業は好きである



② 外国語活動・外国語科の授業に進んで参加している



③ 外国語活動・外国語科の授業で、先生や友達とのコミュニケーションは楽しい



〈成果〉

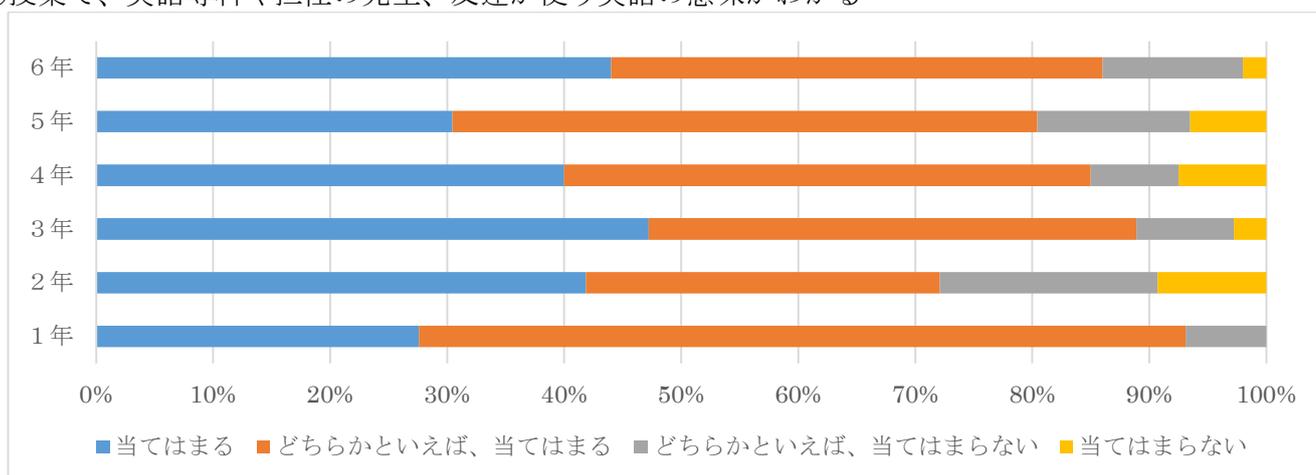
- ・上記3項目において、各学年の肯定的な回答が全て8割以上であった。多くの児童が外国語活動・外国語科の授業に意欲的に取り組んでいることが分かる。また、先生や友達とのコミュニケーションは楽しいと感じている児童がとても多く、コミュニケーション活動にも意欲的に取り組んでいることが分かる。
- ・上記3項目の肯定的回答の学年差が縮まってきている。また、昨年度低かった3年生の肯定的回答が増えており、低学年から中学年への接続がうまくいっていると考えられる。
- ・「先生や友達とのコミュニケーションは楽しい」では、6年生の肯定的回答が非常に高い。これは、数年間継続してコミュニケーション活動に積極的に取り組ませてきたこと、伝える目的や場面・状況を明確にして言語活動を行ってきたことの成果だと考えられる。また、昨年度の栃小教研外国語部会で行った研究の成果を生かして、今年度はさらに目的や場面・状況を明確にした言語活動を行った。言語活動の充実を図ったことで、児童が目的に向かって学習することや児童のコミュニケーションへの意欲や達成感をもたせることができたと考えられる。

〈課題〉

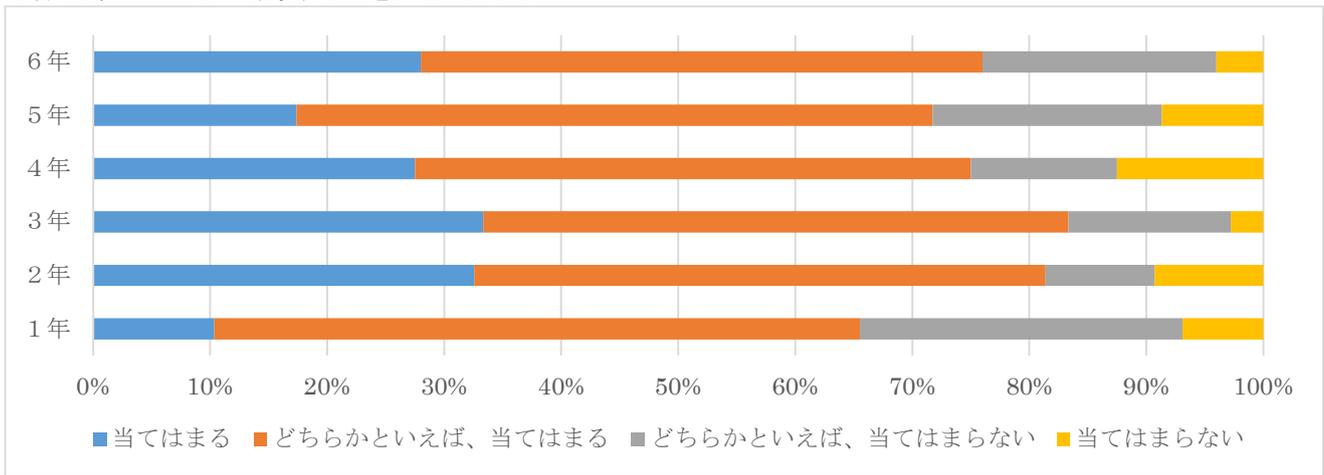
- ・「先生や友達とのコミュニケーションは楽しい」では、全学年8割以上の児童が肯定的回答をしているが、肯定的な回答は昨年度よりも減っている。感染症対策を講じながら少しずつ対面やグループでのコミュニケーション活動を行ってきたが十分ではなかったと考えられる。今後はタブレットやオンライン交流なども活用しながら、感染状況に合わせて自分の考えを伝えられるようなやり方や手立てを常に考えていきたい。また、コミュニケーションの目的や意味を児童が理解できるような活動の設定も不十分であったことも原因だと考えられる。児童が目的意識をもって意味のあるコミュニケーション活動を設定していくことが必要である。

(2) 児童の英語力やコミュニケーション力について（令和4年12月実施のアンケート結果より）

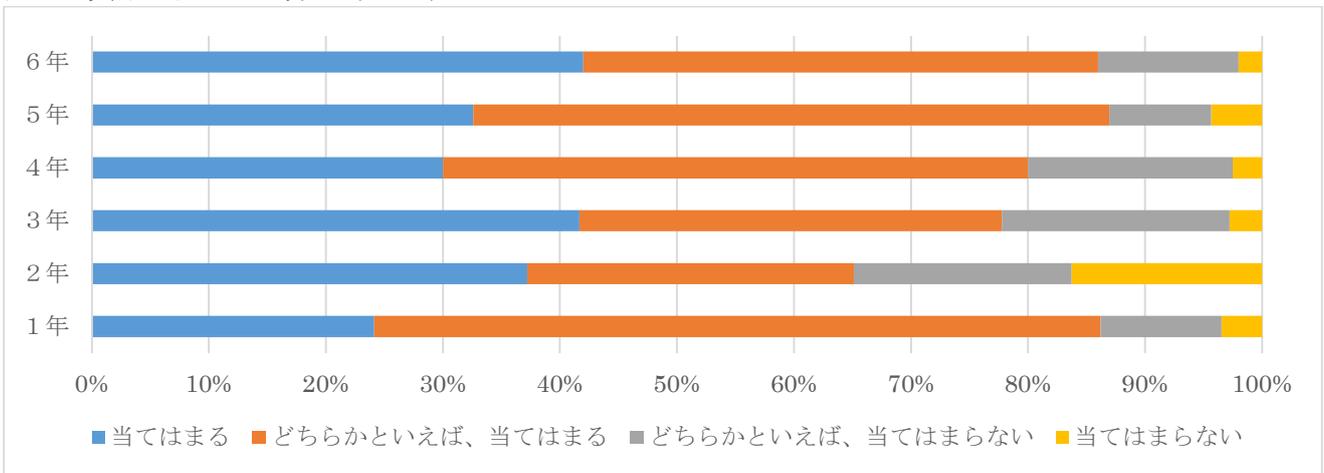
①授業で、英語専科や担任の先生、友達が使う英語の意味がわかる



②授業で、ALT が使う英語の意味がわかる

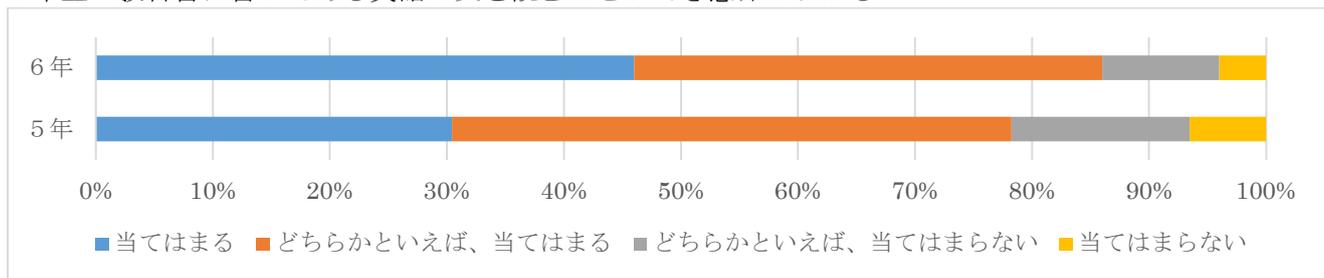


③友達に英語を使って自分の考えを伝えることができる



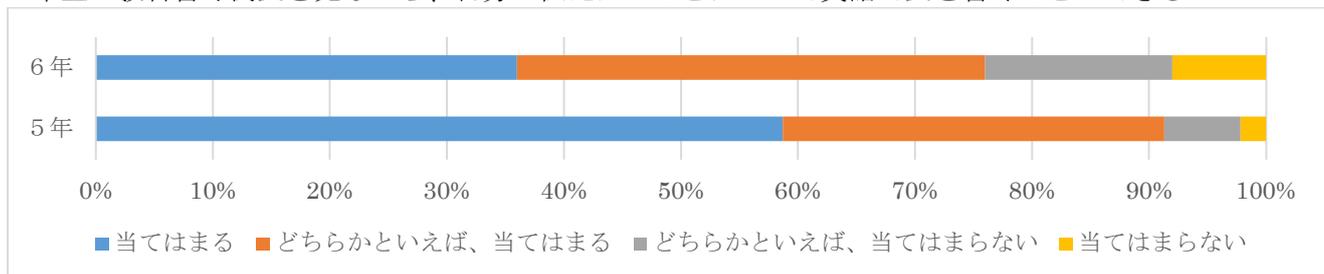
④5年生 英語で書かれた名前や教科書に出てくる言葉を読むことができる

6年生 教科書に書いてある英語の文を読むことができ意味がわかる



⑤5年生 アルファベットの大文字・小文字や簡単な単語を書くことができる

6年生 教科書や例文を見ながら、自分が伝えたいことについて英語で文を書くことができる



〈成果〉

- ・ 1年生と3～6年生の8割以上、2年生は7割以上の児童が担任や専科教員、友達が話す英語を理解していると答えた。ALT の話す英語も多くの児童が理解している。どの学年でも教師やALT が英語による簡単な指示や説明を用いながらの指導を継続してきた成果だと考えられる。また、どの学年の児童も友達やALT との英語でのやり取りに積極的であることも関係していると考えられる。
- ・ 1年生と3～6年生の8割以上、2年生は7割以上の児童が英語で自分の考えを伝えることができることが分かる。各学年の実態に合わせたインタビュー活動やスピーチ活動を積極的に取り入れてきた成果だと考えられる。また、学習内容が難しくなる高学年になっても8割以上の児童が肯定的回答をしていること、昨年度低かった3年生と他の学年との肯定的回答数の差が縮まってきていることから、コミュニケーション活動の系統性を意識した指導の成果が表れていると考えられる。
- ・ 5年生では、9割以上の児童がアルファベットや簡単な単語を書くことができると回答している。また、6年生では、8割以上の児童が教科書に書いている英語の文を読むことができ意味が分かると回答している。外国語科で新たに始まった「読む」「書く」活動に児童が意欲的に取り組み、アルファベットや単語の読み書きなどが定着してきていることが分かる。（※小学校での書く活動は、アルファベットの読み書きと単語や英文を書き写す活動となっている。）

〈課題〉

- ・ 担任や専科教員、ALT の話す英語への理解度が低学年では低くなっている。本格的な英語の学習が始まる前の低学年で、ALT の話す英語を児童が理解できるように担任が必要な支援を行うこと、ALT と一緒に授業改善に努めていくことが必要である。また、中学年と高学年でも昨年度より肯定的回答が減っていることから、低学年と同様に授業改善に努めていく必要がある。どの学年でも、継続して十分に理解できるレベルの英語に触れさせること、慣れ親しませることができるように授業改善をしていきたい。
- ・ 高学年における読みこと・書くことに関する項目で、「当てはまらない」と回答した児童の割合が昨年度よりも増えている。2学年を通して段階的に読むこと・書くことに慣れ親しむことができるように丁寧に指導していきたい。